

自殺企図による向精神病薬大量内服後に 肺血栓塞栓症を発症した1例

もり 俊 明
森 俊 明

キーワード：肺血栓塞栓症，向精神病薬，自殺企図，血栓溶解療法

要 旨

症例は43歳の男性。うつ病，統合失調症にて近医精神科通院していた。昼頃，家人が部屋に行ったところ，床上仰臥位で，呼名に対する反応が認められなかったため当院救急外来受診となった。部屋には向精神病薬の空き袋が大量に発見された。受診時，意識障害，軽度の低酸素血症を認めた。服用した薬剤の量は致死量には至らないと考えられたが，経過観察のための入院とした。翌日午前5時頃，呼吸困難を訴え，直後に呼吸停止を来した。検査にて右肺血栓塞栓症と診断し，血栓溶解療法を行い軽快した。今回の発症原因として，肥満，向精神病薬による過鎮静，脱水，気道狭窄に伴う低酸素血症，フェノチアジン系向精神病薬による直接的な薬理作用を考えた。

はじめに

向精神病薬を大量に内服し，約24時間の臥床後に肺血栓塞栓症をきたした症例を経験したので，その機序を考察し報告する。

症 例

【症例】43歳，男性

【主訴】意識障害

【既往歴】うつ病，統合失調症にて近医精神科通院中。

【現病歴】最近「生きる元気がない」，「死にたい」等の自殺を示唆する発言がたびたび聞かれていた。昼頃まで起床しないため，家人が部屋に行ったところ，床上に仰臥位となっており，呼名に対する反応が認められなかったため当院救急外来受診となった。同時に，ゴミ箱にレボメプロマジン 200 mg，ニトラゼパム 100 mg 分の空き袋が発見された。服用した薬剤の量は致死量には至らないと考えられたが，経過観察のための入院とした。

【身体所見】血圧，脈拍，体温に異常を認めない。血液酸素飽和度92%と低下。身長 170 cm，体重 89 kg，BMI 30 と高度の肥満を認めた。意識レベルは JCS 30。瞳孔は両側縮瞳。いびき，

Toshiaki MORI

島根県済生会江津総合病院内科

連絡先：〒695-8505 江津市江津町1016-37